

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393000031		
法人名	株式会社グループホームつなぎ		
事業所名	グループホームつなぎ(さつき棟)		
所在地	熊本県葦北郡津奈木町大字小津奈木2120番59		
自己評価作成日	令和5年4月28日	評価結果市町村受理日	令和5年6月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和5年4月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームから隣接する町のグラウンドでの様々なイベントの風景も感じられ山や海に囲まれたのどかな環境にあります。2ユニットを併設しており理念である「家庭的な雰囲気」「個々のペース」「健康で安全」「地域との交流」「笑顔の絶えない」を基に共に暮らしています。今年度もコロナ禍の中で活動や研修等を制限せざるを得ない状況に加えて人員確保にも苦勞しているが開設13年目を迎え日々経験知識を積んで前進しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して13年、経年により103歳を筆頭として100歳が3名という超高齢化や重度化傾向(平均介護度3.3)にあるホームでは、この3年新型コロナ感染予防対策の徹底により入居者が罹患すること無く過されており、理念の一つである「健康で安全」の実現に真摯に取り組んでいる。入居して長い年月であっても、身体的にはあまり変りも無く過される様子を職員の関わり方の深さが表出している。人の確保を課題としているが、管理者もケアに入りながら職員とのコミュニケーションを図り、業務を振り分けながらも協力しあい、日課を決める事も無く入居者の自由な生活を見守っている。新型コロナ感染予防を徹底する中では業務中心であったとして地域へ出ることの制約もあるが、緩和されたきた今、地域の中での生活拡充に始動されることと期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時からの理念が理想的であり継続している。理念を区切って実践状況を評価すると全体的には概ね実践されていると思うが共有という意味では議論が必要と思う	開設当初からの理念である家庭的な環境の中で個々のペースに合わせたケア…を継続している。コロナ禍の中で、感染予防対策を徹底し、その日その日の入居者の生活をいかに支援するかに注視したケアに取り組んでいる。令和4年度は、理念の振り返りは出来なかったとして、新規入職者には特に理念の持つ意義等を説明する意向である。	新年度は時間的な余裕があれば、職員一堂が集いながら理念を振り返ることで、ホームの姿勢を共有されることが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	前々から課題項目ではあったが今年度もコロナ禍の状況でもあったため地域との交流行事や活動等においても制限せざるを得ない状況であった	コロナ禍という現状に感染予防対策を徹底するなかでは、密になる場所へ出かける事や地域につながるの生活は出来ておらず、課題として捉えている。	まずは、これまでの関わりのある住民との関係性の再始動に期待したい。入居者も高齢化傾向にあり、ボランティアの受入れなどホームに居ながらにして地域の方々との交流の機会を検討される事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年であれば2名のキャラバンメイトが在籍しており地域に向けた認知症サポーター養成講座の活動に参加しているが今年度もコロナ禍の状況等もあって活動が無かった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎の開催をしているが今年度もコロナ禍の状況でもあったため町の担当職員にも相談の上で、書面送付のみの開催となり意見交換等はあまりできなかった	今年度も行政との相談の結果、書面審議とし2ヶ月毎にホームの現状を詳細に記した報告書を配布している。行政や委員からの意見等はないように見受けられる。	運営推進会議が対面での開催が可能になれば、委員との意見が交わされるものと思われる。家族もメンバーとして検討頂き、ホームの課題等を考える機会とされることを望みたい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には町の担当職員もメンバーであるが前項目の状況でもあったため会議での情報交換はできなかったが必要時は随時連絡等しながら協力関係は築けていると思う	行政に直接出向きながらホームの現状を発信し、行政による実地指導や、メールによる情報提供、ホームで手続きから対応した生活保護等には福祉事務所からの訪問もあり情報交換を行う等入居者に関わる関係機関との協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度も項目関連の内部研修を2回実施して再認識に努めている。身体的拘束適正委員会は運営推進会議と同時に開催していたが前項目の状況でもあったため書面送付のみの開催となったが身体拘束はしていない	年2回の研修により意識強化を図り、家族の同意を得て転倒の危険性のある入居者へのセンサー使用はプランに組み入れている。身体拘束適正化委員会として運営推進会議を活用していたが書面審議となり、身体拘束の有無として具体的な行為(柵やミトン、介護衣、居室等の隔離や施錠等)を記し報告する体制としているが、拘束は行われていない。入居者との関わりの中で馴れ合いも出てしまう部分もあるとしているが、職員は自分の親として関わっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度も継続して項目関連の内部研修を実施しており理解を図り防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	項目関連に関しては研修等の機会もなく認識不足ではあるが必要性が生じたときなどは研修等の機会も必要と思われる。生活保護者の受け入れや金銭管理等の支援はしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	当初の契約時に概ね想定されることは説明している。改定時等は随時書面による同意や福祉用具等の必要性が生じた場合でも随時説明承諾を得ている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に関しては意思表示できる方も多く配慮しており要望等の確認もしている。家族等に関しては例年は家族会にて意見交換の場を設けていたが今年度もコロナ禍の状況で開催せず。随時、事あるごとに意見は訪ねている。意見箱もあるが面会制限していた期間も長かった	利用料金を持参とすることで入居者と会う機会としているが、家族もコロナ禍という状況に面会自体を控えてくださる等家族との関係は良好である。家族への担当職員からの個別の便りは、家族の不安軽減として生かされている。玄関での面会時やプラン見直し時に要望等を聞き取りする他、受診に対する意見やコロナワクチン接種時等に家族に意見を求めている。入居者には日々のケアの中で聞き取りしている。	コロナ感染症対策の緩和により、家族との交流の再開に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットケース会議や随時でも利用者個々並びに運営に関する意見提案あり都度検討している。全体のリーダー会議においては同様内容と大事な事項の検討もしている。	管理者は自らケアに入りながら職員とのコミュニケーションを図り、意見等を聞き取りし、職員も何かあれば管理者へ申し出ている。職員が一同に会する事が難しい状況にあるが、開設からの経年による設備(物品)での意見や勤務時間帯の相談等公私の意見を聞き取り検討している。また、業務分担としながらも職員同士が協力しあっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれの環境等に応じた就業配慮や希望を尊重している。個々の職務役割等においても処遇改善への反映もある。離職も少ない勤務継続の中で利用者の生活の継続性にもつながっていると思うが、定年退職者の時期が重なり人員補充もできず人手不足は否めない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な内部研修の継続や資格取得のためのシフト調整等の配慮しスキルアップを図っている。今年度もコロナ禍の状況で外部研修は最低限に留めた		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本県地域密着型サービス連絡会地区ブロック会でも世話人もしている。通常であれば年の数回勉強会や交流会等実施しているが今年度もコロナ禍の状況であり、わずかな開催に留まった		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前には本人との面談を実施して要望意向等の確認などコミュニケーションを図っている。また見学も随時実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前には家族等との面談を実施してホームの概要説明や状況要望等の確認をしている。本人家族との意向の違いなどあった場合は、話し合いなどを促している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前の関係機関からの情報収集や面談調査要望等の確認においてアセスメント実施してケア方法や福祉用具等の暫定的な初期支援の見極めに努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	意向、性格、心身機能等を考慮しながら家事掃除、催し物の準備などを行いながら生活リハビリにもつながっている。制服も指定せず利用者一職員とならないような配慮もしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通常は定期的な面会促しや面会時の居室にてゆっくりできるような配慮、宿泊も可能で正月等の外出外泊の促しもしているが今年度もコロナ禍の状況であまりできなかった		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度もコロナ禍の状況で面会外出等制限もあったが家族知人等のアクリル板や窓越しでの面会や電話で話すなど、できることは配慮した	家族とのアクリル板越しでの面会やかかりつけ医の継続、在宅時の民生委員の訪問等もある。入居者のこれまでの生活歴等を把握しているが、コロナ禍や高齢化により馴染みの場所への外出支援は困難な状況にあるが、家族や知人との電話を支援する等今出来る最大限の支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で家事等のお手伝いをして頂いたり、性格、認知症状、関係性等を配慮して随時配置等の状況に合わせた環境に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了時でも必要に応じて関係機関への情報提供や支援等できる限り努めている。過去に在籍していた利用者家族等からの相談も増えてきたように思う		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活においては状況等を配慮しながらも本人確認し意向沿って本人のペースで過ごして頂いている。定期的な希望意向確認もしている。意思表示の困難な方は状況等を配慮しながらケアに努めている	意思表示のできるユニットでは自分のペースでの生活が来ている。意思表示の出来ない入居者にはこれまでの関わりの中で把握し日々のケアに反映させている。入居者の「したい・ほしい」等に出来る限り対応し、職員は傾聴の姿勢での対応や言葉を掛け、筆記やホワイトボード等を駆使しながらコミュニケーションを図り、入居者の思いを引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前には本人や家族面談調査、関係機関からの情報収集で生活歴、暮らし方、環境等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース会議や経過記録等で随時状況把握に努めて自立支援や役割等を促している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを実施して課題を抽出し本人家族等の要望等も含めて介護計画作成説明を行いモニタリングや状況に応じて見直しも実施している	本人及び家族の意向を基にしたプランは、短期目標3ヶ月、長期目標を6ヶ月として、ケアチェック表により課題を見極めている。介護保険更新や区分変更による見直し等、現状に即したプランである。残存機能維持に向けたプランや家族の申し出を朱書きとして追加する等個別的なプランが作成されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録により介護計画の実践状況および、その他の気づき状態等も記入しており申し送り等で共有および検討している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	これまでは看取り体制整備のため訪問診療看護利用による連携に取り組んできた。制度上の制限等でニーズに対応できないこともある		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問診療、消防、訪問美容など常時随時で継続して活用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には本人家族の希望に沿って、かかりつけ医を決めており概ねサービス利用前から継続している。夜間等対応不可の医療機関の場合など緊急時の医療機関の希望も聞いている。重度化に向けてのかかりつけ医変更の必要性が検討される時は本人家族承諾のもとで変更している。歯科眼科など突発的な受診も本人家族に確認して受診している	家族の意向に沿い、希望されるかかりつけ医として、訪問診療や受診を職員が対応している。入居者の重度化を視野に家族との話し合いによる医療機関の変更や、看取りの段階には看取りケアを対応される訪問診療のある医療機関へ変更している。職員は毎日バイタルチェックを行い、異常があれば再検する等適正の医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の健康管理(バイタルチェック、食事水分排泄チェック等)や状態観察により状態変化時等は、かかりつけ医報告相談及び受診等早期対応は良くできていると思う		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供書等を行っており定期的に確認などで状況把握に努めており退院前には必要に応じて家族も含めた退院前カンファレンスも実施している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス利用前から重度化や終末期に関する指針の説明同意を得ており、対応できる部分、出来ない部分など想定できる範囲で伝えている。終末期看取りに備えてのかかりつけ医変更や連携への体制確保など要望に沿えるようできる限りで取り組んでいる	入居に際し、重度化した場合や終末期ケアについて指針をもとに説明し（医療行為があればホームでは出来ないこと等）、家族と同意を交わしている。家族の希望によりホームではこれまで数例の看取りを支援しているが、入退院後の医療依存度が高くなればホームでの対応（経管栄養など）が難しいとして、医療機関へ移行されている。日々の状態変化等を把握し、家族の思いの変化に随時の話しあいや訪問看護等を利用しながら高齢化・重度化する入居者を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度も項目関連の内部研修実施しており救命講習受講者も複数いるが実践の場面は少ないため実技の研修等は必要である。救急時は、とにかくすぐ通報するよう心がけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練に関しては年2回は実施している。備蓄保管や非常災害に関する計画もあるが豪雨被害もあったため更に実践的な訓練等で課題分析の必要性もある	本年度も、火災を想定した総合避難訓練を実施している。自然災害（水害）が心配される地域にあるホームでは、近くの役場に避難した経緯もあり、グループホーム連絡協議会（地区ブロック会）での大水害時の体験談により状況を把握し、ハザードマップで水に関する避難場所を明確にし、課題を基にしたシュミレーションにより意識を強化させている。	ホーム周辺の草刈り等環境整備に地域住民の協力を得ること等検討いただきたい。ホーム周辺の環境整備が、火災等の対策の一環として生かされ、入居者が外を眺めて楽しめる環境につながることを期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者家族には個人情報や写真掲載の同意を書面で得ている。職員に関しても守秘義務等の契約を書面で得ており今年度も関連項目の内部研修を実施している。様々なケアの場面でのプライバシーの配慮はできているが慣れ合いによる言葉かけ等は注意していかなければならないと感じる	プライバシーや個人情報の保護等研修会の開催や集まることが難しい場合には資料の回覧により、各自が確認する体制としている。入居者との会話は分かりやすい言葉や表現を心掛け、親しい中でも節度を持ってケアに取り組んでいる。個人情報の使用や写真掲載等については家族の承諾を得、職員にも守秘義務等についての説明と同意書を交わしている。	食事介助時等入居者のタイミングに合わせることが出来ず、職員の主導になることもあるとして、時間に左右される、ゆっくりとゆとりを持ってケアに関わるようにしていきたいとしており、今後の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示できる利用者の割合が多いため意思を尊重して対応できていると思うが業務主導となってしまう部分はある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	前項同様で意思を尊重した対応は概ねできていると思うが、どうしても業務主導になるころはある。日課等もなく本人のペースでは過ごせているとは思っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人で服を選んだり身だしなみを整えたりできる方は自身でされている。髪染めの要望も職員で対応したりしている。自身でできない方に関しては職員主導になっているところもあり特に整容等は配慮に欠けているときもある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	片付け等できる部分は一緒に作業している。季節食や誕生会食また個々の状態に合わせた食事形態も配慮している。全体的な業務効率のため食品業者の活用はある	食事は朝食と、昼・夜の主食及び汁物は調理し、副食(おかずやサラダ等)は、食品業者を利用している。ホームで調理をしていた時は職員も一緒に食事を摂っていたが、コロナ感染症や業務体制を見直し、現在は1名を除き弁当持参としている。誕生日メニューにちらし寿司を提供する等行事に応じて入居者の希望を反映させている。	体制が整えば以前のようなホームでの調理を定期的に取り入れたいとしており、実現に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は食べ易い調理になっている。毎日、食事水分摂取量をチェック表に記載し把握している。体重管理、食事時間、介助具及び方法等の工夫もしている。必要に応じてかかりつけ医相談等で補食その他、指示を仰いでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事等の口腔ケア、定期的な義歯消毒など個々に応じた介助を行い、必要に応じて歯科受診、訪問歯科利用または相談等している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りでトイレやポータブルトイレでの排泄を心がけておりオムツもリハビリパンツなどコスト削減に努めている。個々に合わせたトイレ誘導やパッド交換を行う。毎日のトイレ掃除またポータブルトイレ洗浄日干しもしている	入居者個々の排泄状況を申し送りノートより共有している。排泄用品(下着やリハビリパンツ・オムツ等)は、入居者個々の自立度により極めるとともに、尿量による排泄用品の検討や、昼・夜には排泄用品を使い分けている。日中はトイレでの排泄を基本としており、誘導の際失敗をしないようにと考え、つい車椅子を使ってしまふとの事である。	排泄は入居者の歩行訓練にもつながると思われ、トイレへの声掛け・誘導には少し余裕を持って対応するされることが望まれる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の希望や状態に応じながら毎日ヨーグルトの提供。排泄チェック表にて排便の頻度性状等の確認を行いながら必要に応じて、かかりつけ医へ報告相談行い指示や下剤調整している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否がある方に対しては無理強いはずせず時間をずらすなどの対応を行っている。また複数介助が必要な利用者など状態に応じた支援をしている。室温管理もしている。業務の都合での日時指定になってしまうが現状調整は難しい	入浴日は前もって決めず、入居者の心身の状況等により支援している。入浴拒否には無理に誘わず、時間を見て再度声を掛けている。身体状況から一人介助が難しくなった入居者には複数での対応により安全な入浴を支援している。	今後、入浴の回数や個別の支援内容、時間等をあらためて検討し、入居者にとって楽しみな入浴となるよう支援頂きたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意向を尊重しながらも日々午睡の促し、意思表示や行動困難な利用者は身体面を配慮して定期臥床もしている。また夜間帯であっても無理に入眠を促せず見守りしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の詳細については薬情等で確認しており変更時は随時申し送り等で周知。服薬管理については服薬チェック表とダブルチェックとなるような方法をとってはいる。状態に応じて主治医報告相談も随時している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の意向やペースにて過ごして頂きながら作業、家事、体操、行事、散歩等している。嗜好品も酒類等のホームとしての制限は特に設けていない		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事や季節毎での見学等していたが、今年度もコロナ禍の状況でほとんど外出できず、控えている部分もある。近場の散歩はできる限り取り組んだ。	コロナ感染症による外出の制限のなかで、ホーム周辺での散歩やあじさい・桜等の花見で出かけている。職員との受診も外出の機会とし、入居者は日中の楽しみとして新聞を見たり、テレビ等に興じられている。	外出については家族に協力を依頼し、一緒に近隣を散歩してもらう等今後の取り組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意向等で所持している利用者もいるが、主に小口金として預かっている。利用者自身が実際にお金を使う機会がなく今年度もコロナ禍の状況で買い物にも出かけていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望があった方は本人または職員代弁で対応している。年賀状や手紙等届くことはある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時期に応じた飾りや作品の展示で季節感の考慮はしているが安全面の配慮で物品等を取り除くこともある。新聞チラシ等を交互で見られることもある	役場の近くにあるという立地ではあるが、静かな環境に有り、感染症予防対策として掃除や換気等の徹底等衛生管理に努めている。季節に応じた壁面の飾りは職員が行っているが、入居者も出来ることを手伝われている。入居者同士の語らいの場としていることも訪問時に確認出来た。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室であり本人のペースで過ごされている。共用空間においてもその時々の利用者の状態に応じてテーブルの分散配置など臨機応変にしている。両ユニット間の行き来も自由である		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	サービス開始時または随時馴染みの物の持ち込み品はそれぞれ様々である。衣替えの協力も得ている。毎日の清掃換気その他チェック表にて布団干しも定期的に行っている	居室への持込みは基本的には自由で有ることや、入居者が使い馴れた物や思い出の品を持参してもらうように説明している。テレビやソファ、タンス等の他、誕生日のプレゼントや家族写真を置き、昼食後の休息や、自分で掃き掃除をされる等自宅の延長としての居室環境としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内は全面バリアフリーとなっている。トイレ・浴室の掲示や居室は名札で掲示しており認識し易いようにしており自立支援を促している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393000031
法人名	株式会社グループホームつなぎ
事業所名	グループホームつなぎ(もみじ棟)
所在地	熊本県葦北郡津奈木町大字小津奈木2120番59
自己評価作成日	令和5年4月22日
評価結果市町村受理日	令和5年6月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和5年4月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲も山や海に囲まれたのどかな環境の立地であり、隣接する町のグラウンドでは様々なイベントがあり、夏には花火大会もホームから見学出来る場所にあります。2ユニットを併設した事業所にて、理念である「家庭的な雰囲気」「個々のペース」「健康で安全」「地域との交流」「笑顔の絶えない」を基に共に暮らしています。コロナ禍においての活動や研修、地域との交流の機会も制限している状況ではあるが、その中で、現在出来る事等を日々模索しながらも、利用者の方々にとってのより良い暮らしにつながるよう職員一同日々研鑽しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して13年、経年により103歳を筆頭として100歳が3名という超高齢化や重度化傾向(平均介護度3.3)にあるホームでは、この3年新型コロナ感染予防対策の徹底により入居者が罹患すること無く過されており、理念の一つである「健康で安全」の実現に真摯に取り組んでいる。入居して長い年月であっても、身体的にはあまり変わり無く過される様子を職員の関わり方の深さが表出している。人の確保を課題としているが、管理者もケアに入りながら職員とのコミュニケーションを図り、業務を振り分けながらも協力しあい、日課を決める事も無く入居者の自由な生活を見守っている。新型コロナ感染予防を徹底する中では業務中心であったとして地域へ出ることの制約もあるが、緩和されたきた今、地域の中での生活拡充に始動されることと期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気や個々のペースに合わせたケアについては、利用者の方々の状態等も考慮しながらではあるが、概ね実践出来ているのではと考える。コロナ感染対策等から、地域密着型サービスとしての活動については不十分であったと思われるが、利用者の感染がなかったことに対しては感染対策が図ることが出来、安全な暮らしを確保することが出来たのではと思う。	開設当初からの理念である家庭的な環境の中で個々のペースに合わせたケア…を継続している。コロナ禍の中で、感染予防対策を徹底し、その日その日の入居者の生活をいかに支援するかに注視したケアに取り組んでいる。令和4年度は、理念の振り返りは出来なかったとして、新規入職者には特に理念の持つ意義等を説明する意向である。	新年度は時間的な余裕があれば、職員一堂が集いながら理念を振り返ることで、ホームの姿勢を共有されることが望まれる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において、外部自体とのつながりが希薄な状況である。今後、感染対策等の緩和が図られる予定である為、これまで難しかった交流の機会を積極的に取り組んで行きたいと思う。	コロナ禍という現状に感染予防対策を徹底するなかでは、密になる場所へ出かける事や地域につながるの生活は出来ておらず、課題として捉えている。	まずは、これまでの関わりのある住民との関係性の再始動に期待したい。入居者も高齢化傾向にあり、ボランティアの受入れなどホームに居ながらにして地域の方々との交流の機会を検討される事を期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍であり、認知症サポーター養成講座等への参加も困難な状況であった為、今後の情勢に応じながらであるが、参加への機会も増やしていき、地域の方々への認知症への理解や共有が出来るようにしていければと考えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍において、書面での開催が主である為、運営推進会議においても、今後の感染状況など、情勢に応じながら、臨機応変に、顔を合わせた会議が行えればと考えている。	今年度も行政との相談の結果、書面審議とし2ヶ月毎にホームの現状を詳細に記した報告書を配布している。行政や委員からの意見等は無いように見受けられる。	運営推進会議が対面での開催が可能になれば、委員との意見が交わされるものと思われる。家族もメンバーとして検討頂き、ホームの課題等を考える機会とされることを望みたい。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とも日頃から連絡を取り合い、事業所の実情や更新される様々な情報の共有を図りながら協力関係が築けるよう取り組んでいる。	行政に直接出向きながらホームの現状を発信し、行政による実地指導や、メールによる情報提供、ホームで手続きから対応した生活保護等には福祉事務所からの訪問もあり情報交換を行う等入居者に関わる関係機関との協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な身体拘束廃止委員会の開催のもと、実際に身体拘束は現時点では行っていないが、今後も、身体拘束に至らないよう、状況によっては、代替ケア等を考えながら身体拘束をしないケアに取り組んでいく。	年2回の研修により意識強化を図り、家族の同意を得て転倒の危険性のある入居者へのセンサー使用はプランに組み入れている。身体拘束適正化委員会として運営推進会議を活用していたが書面審議となり、身体拘束の有無として具体的な行為(柵やミトン、介護衣、居室等の隔離や施錠等)を記し報告する体制としているが、拘束は行われていない。入居者との関わりの中で馴れ合いも出てしまう部分もあるとしているが、職員は自分の親として関わっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部での虐待についての勉強会の実施により、日頃の自身のケアについての振り返りの機会を持ちながら、虐待の防止に努めている。また、不適切なケアなどについても日々の業務の中でも注意を払いながら、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部での、個人情報についての勉強会を実施している。詳しい日常生活自立支援事業や成年後見制度については、直接触れる機会もほとんどない為、今後は学ぶ機会が持てるよう取り組んでいきたいと思う。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等、相手の理解度に応じながらの説明方法等交えた説明を行い、理解・納得を図っている。また、想定されるような事柄などについても丁寧な説明がこちらから行えるよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	可能な限りの範囲内ではあるが、利用者や家族等の意見、要望等に沿える事が出来るように継続して努めている。以前実施していた家族会にて、意見や要望を聞き取るしていたがコロナ禍において実施が出来ていない状況である。コロナの感染状況もあるが、現在はアクリル板越しの面会が出来ている為、その様な機会に意見等を聞き取りながら、意見の反映が図れるよう努めていく。	利用料金を持参とすることで入居者と会う機会としているが、家族もコロナ禍という状況に面会自体を控えてくださる等家族との関係は良好である。家族への担当職員からの個別の便りは、家族の不安軽減として生かされている。玄関での面会時やプラン見直し時に要望等を聞き取りする他、受診に対する意見やコロナワクチン接種時等常に家族に意見を求めている。入居者には日々のケアの中で聞き取りしている。	コロナ感染症対策の緩和により、家族との交流の再開に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	改まって意見などを聞く機会のみならず、日々の業務の中においても、職員の意見や提案についても、反映させられる部分については、積極的に反映させながら、運営を行っている。	管理者は自らケアに入りながら職員とのコミュニケーションを図り、意見等を聞き取りし、職員も何かあれば管理者へ申し出ている。職員が一同に会する事が難しい状況にあるが、開設からの経年による設備(物品)での意見や勤務時間帯の相談等公私の意見を聞き取り検討している。また、業務分担としながらも職員同士が協力しあっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況に応じた就業の配慮や希望に沿った就業環境の整備に努めている。しかし、職員の退職等により、勤務状況の変化も少なからずある為、職員数を含めた職場環境の改善整備を早急に図っていく必要がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の外部での研修等への参加へも、積極的に参加する機会の確保等を設けながら、職員を育てる取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームブロック会への参加により、他事業所との交流の機会を作り、ネットワーク作りに努めている。また、コロナ感染流行期において、実際にコロナ感染があった事業所の状況などを細かく書面等においてではあるが、共有を図りながら学び、サービスの質の向上を図ることが出来た。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階から、本人の困り事の確認や把握に努めている。また、本人からは表出しづらい要望や意向等もご家族にも確認を取りながら、安心して過ごして頂けるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階から、ご家族の困り事や不安事、要望等の確認を行っている。また、それ以外でも想定される、問題等についてもこちらからも確認を取りながら、良好な信頼関係が図れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階において、聞き取り等のもと、その時に必要な支援の見極めを行いながら、他のサービス利用が必要な場合についても、利用の活用の検討も含めた対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方々においても、それぞれの残存機能を活かした取り組みを行い、協力を図り、共に暮らしながら、役割意識を持った生活が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員での対応が困難な場面でも、ご家族とのやり取りの中で心身の安定が図られる場面もある為、これまでの家族の関係性の継続や共にご本人を支えていく関係が図っていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍においても、アクリル板越しの面会による馴染みの人との交流は図れているが、場所については、なかなか感染予防の観点から関係の継続が図れていないことが実情である。今後の情勢に応じながらではあるが、そういった部分の改善が図れるよう支援を行っていきたい。	家族とのアクリル板越しでの面会やかかりつけ医の継続、在宅時の民生委員の訪問等もある。入居者のこれまでの生活歴等を把握しているが、コロナ禍や高齢化により馴染みの場所への外出支援は困難な状況にあるが、家族や知人との電話を支援する等今出来る最大限の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状況や状態に応じながらではあるが、テーブルの配置を行い、交流が出来る環境設定に努めている。反対に他者への影響へも配慮した上での、テーブルの分散配置等も行いながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後においても、必要に応じてではあるが、本人・家族の経過についても、相談や支援に努められるよう対応を心掛けている。現在まで相談等の機会はない状況。関係を断ち切らない姿勢での関わり方を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り、本人の意向や要望に沿った暮らしの把握に努めながら、実践しているが、実際の本人の希望を実施することが出来ないこともある為、どのようにして、ホームでの暮らしがより良いものになるか、代案等ないかを、日々、検討しながら対応している。	意思表示のできるユニットでは自分のペースでの生活が出来ている。意思表示の出来ない入居者にはこれまでの関わりの中で把握し日々のケアに反映させている。入居者の「したい・ほしい」等に出来る限り対応し、職員は傾聴の姿勢での対応や言葉を掛け、筆記やホワイトボード等を駆使しながらコミュニケーションを図り、入居者の思いを引き出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集等から、これまでの生活歴や生活環境等の把握に努めている。また、アセスメント不足により、入居後に知る情報等も多々ある事もある為、すぐに反映し、ケアに活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る限りこれまでの暮らしの継続が出来るよう現状の把握を行い、状態の変化にも配慮した、現在必要な支援を図りながら努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	実際に関わる中での作成者自身の現状の把握だけでなく、本人、家族、他スタッフからの気付きや意見等を反映させながら、介護計画を作成している。	本人及び家族の意向を基にしたプランは、短期目標3ヶ月、長期目標を6ヶ月として、ケアチェック表により課題を見極めている。介護保険更新や区分変更による見直し等、現状に即したプランである。残存機能維持に向けたプランや家族の申し出を朱書きとして追加する等個別的なプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録等から、実践への評価を行いながら、変化や気付き等を記録に残しながら、職員間での情報を共有し、実践、見直しを繰り返しながら自立支援に向けた介護計画に反映できるよう取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り、本人の意向に沿った対応に心掛けてはいるが、意向や要望に沿えない場合でも、代替ケア等が図れるよう取り組んでいる。今後も既存のサービスだけでなく、柔軟な支援が図れるよう様々な情報や地域の活用が出来るよう取り組んでいければと考える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍において、地域資源との協働に関しては不十分であると思われる。少なからず、地域資源の把握はしているつもりだが、活用しての支援には繋がっていない現状の為、今後も新たな資源の発掘を含めた、地域との協働を自ら積極的に図っていかなければならないと感じる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、入居前からの本人及びご家族等の希望に沿ったかかりつけ医の継続のもと対応を行っている。ご本人の状態の変化によってはかかりつけ医についても訪問診療等が可能な医療機関の利用についても丁寧に説明を行いながら、適切な支援につなげていけるよう行っている。	家族の意向に沿い、希望されるかかりつけ医として、訪問診療や受診を職員が対応している。入居者の重度化を視野に家族との話し合いによる医療機関の変更や、看取りの段階には看取りケアを対応される訪問診療のある医療機関へ変更している。職員は毎日バイタルチェックを行い、異常があれば再検する等適正の医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護職は在籍なし。かかりつけ医や訪問診療時等に随時状態についての相談を行いながら支援を継続している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の入院時情報提供書のもと、入院先との情報共有を図りながら協働に努めている。又、入院中や、退院前後も現状の確認をとりながら、退院後に必要な支援がスムーズに図れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の状態に合わせた支援が安心・安全に提供できる場所等の説明を丁寧に行いながら、今後の方針の共有に努めている。又、ご本人、ご家族の要望等によっては、ホームでの終末期等の支援も訪問看護や訪問診療等の活用により、対応が可能である事や、看取りの実績なども説明しながら取り組んでいる。日々状態の変化等から、意向の変化へも考慮し、柔軟な対応が出来るように努めている。	入居に際し、重度化した場合や終末期ケアについて指針をもとに説明し(医療行為があればホームでは出来ないこと等)、家族と同意を交わしている。家族の希望によりホームではこれまで数例の看取りを支援しているが、入退院後の医療依存度が高くなればホームでの対応(経管栄養など)が難しいとして、医療機関へ移行されている。日々の状態変化等を把握し、家族の思いの変化に随時の話しあいや訪問看護等を利用しながら高齢化・重度化する入居者を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な年に2回の消防訓練は実施している。非常災害対策については、備蓄保管や災害対策に関する計画書はあるが、実践的な訓練の機会を定期的に設けることも必要である。	本年度も、火災を想定した総合避難訓練を実施している。自然災害(水害)が心配される地域にあるホームでは、近くの役場に避難した経緯もあり、グループホーム連絡協議会(地区ブロック会)での大水害時の体験談により状況を把握し、ハザードマップで水に関する避難場所を明確にし、課題を基にしたシュミレーションにより意識を強化させている。	ホーム周辺の草刈り等環境整備に地域住民の協力を得ること等検討いただきたい。ホーム周辺の環境整備が、火災等の対策の一環として生かされ、入居者が外を眺めて楽しめる環境につながることを期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重した上で、その方に合わせた馴染みの関係づくりにつながるような地域の方言を使用した言葉かけや関わりを持ちながら対応に心掛けている。	プライバシーや個人情報の保護等研修会の開催や集まるのが難しい場合には資料の回覧により、各自が確認する体制としている。入居者との会話は分かりやすい言葉や表現を心掛け、親しい中でも節度を持ってケアに取り組んでいる。個人情報の使用や写真掲載等については家族の承諾を得、職員にも守秘義務等についての説明と同意書を交わしている。	食事介助時等入居者のタイミングに合わせることが出来ず、職員の主導になることもあるとして、時間に左右される、ゆっくりとゆとりを持ってケアに関わるようにしていきたいとしており、今後の取り組みに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意向の表出が難しい方においても、表情や生活歴、返答しやすいような会話のやり取りなどに配慮しながら、意向の表出や自己決定が図れるような支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせた支援につながるよう、一つ一つ意向の確認を取りながらその人らしい暮らしが過ごせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣類を選ばれる方もおられるが、自身で選ぶ事が難しい方は職員主導の場面もある為、配慮に欠けている。その人らしい身だしなみやおしゃれの支援が図れるよう今後気を付けながら支援に努めていく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状態に応じた食形態での提供を行っている。又、メニューに関して、事業所での調理は行いながらも、職員数の減少や業務の効率化から、食品業者の活用を行っている状況である。彩や栄養面、メニューの豊富さでは以前よりは(+)の面である、その中でも、職員も同じテーブルで食事をすることは継続して行いながら、一緒に食事を食べる機会を設けている。	食事は朝食と、昼・夜の主食及び汁物は調理し、副食(おかずやサラダ等)は、食品業者を利用している。ホームで調理をしていた時は職員も一緒に食事を摂っていたが、コロナ感染症や業務体制を見直し、現在は1名を除き弁当持参としている。誕生日メニューにちらし寿司を提供する等行事に応じて入居者の希望を反映させている。	体制が整えば以前のようなホームでの調理を定期的に取り入れたいとしており、実現に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェック表の活用により、摂取量不足気味の方に関してはご家族からの差し入れ等や嗜好品の提供を行いながら食事・水分等の確保が図れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの実施や義歯洗浄剤の使用を行い口腔内の清潔保持に努めている。また、利用者の状態に合わせて必要な口腔ケア物品の使用を行いながら対応している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入退院後でも、排泄動作の再獲得が図れるよう、状態に考慮した声かけや見守りを行いながら支援に努めている。又、可能な限りトイレやポータブルトイレでの排泄が出来るよう、状態に応じながらではあるが排泄支援に取り組んでいる。	入居者個々の排泄状況を申し送りノートより共有している。排泄用品(下着やリハビリパンツ・オムツ等)は、入居者個々の自立度により極めるとともに、尿量による排泄用品の検討や、昼・夜には排泄用品を使い分けている。日中はトイレでの排泄を基本としており、誘導の際失敗をしないようにと考え、つい車椅子を使ってしまふとの事である。	排泄は入居者の歩行訓練にもつながると思われ、トイレへの声掛け・誘導には少し余裕を持って対応するされることが望まれる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態にも合わせながら毎朝ヨーグルトの提供を行っている。排泄チェック表にて排便の頻度や状態等の確認を行いながら、かかりつけ医相談のもと、下剤の調整を行いながら対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日の指定は特になく、状況に応じた入浴支援が図れてはいるが、反対に回数面では職員数や業務の都合上十分な入浴支援が図れないこともある現状である。	入浴日は前もって決めず、入居者の心身の状況等により支援している。入浴拒否には無理に誘わず、時間を見て再度声をかけている。身体状況から一人介助が難しくなった入居者には複数での対応により安全な入浴を支援している。	今後、入浴の回数や個別の支援内容、時間等をあらためて検討し、入居者にとって楽しみな入浴となるよう支援頂きたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意向を尊重しながらも、午睡の時間も促し、体調面や状態に応じながら定期臥床の時間も行きながら対応している。又、日中の活動量の確保も行いながら、夜間の安眠へつながるよう支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服用中の内服薬の把握のもと、服用に伴う、変化等の観察を行いながら、かかりつけ医へ報告、相談を行いながら対応を行っている。又、服薬方法についても、かかりつけ医や薬剤師への相談を行いながら、確実な服薬支援につながるよう錠剤等の可能な薬はつぶしての対応を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみなどの実施により、役割意識を持って頂きながらも、本人の負担にならないよう配慮しながらの対応支援に努めていく。又、それぞれの楽しみごとの把握をした上で支援を図りながら気分転換に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援についても、近場の花見見学や散歩等がメインである状況ではあるが、外に出られることで、普段と違った表情もみられる為、可能な限り、気分転換も兼ねた散歩など実施していければと考えている。	コロナ感染症による外出の制限のなかで、ホーム周辺での散歩やあじさい・桜等の花見で出かけている。職員との受診も外出の機会とし、入居者は日中の楽しみとして新聞を見たり、テレビ等に興じられている。	外出については、家族に協力を依頼し、一緒に近隣を散歩してもらう等今後の取り組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身でお金を管理や所持しておられる方は現在おられない。以前は希望があった方にはお金の所持の対応を行っていた為、今後希望のある方に対しては出来る限り希望や要望に沿った対応を行っていければと考えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望時は電話でのやり取りをして頂けるような支援も継続して行っている。手紙のやり取りに関して現状は実施該当者の方はおられない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	視覚からの認知症状への影響にも配慮した住環境等の整備に努めている。また、季節に合わせた壁面等のしつらえ等も行いながら季節感が感じられる共有空間づくりに努めている。	役場の近くにあるという立地ではあるが、静かな環境に有り、感染症予防対策として掃除や換気等の徹底等衛生管理に努めている。季節に応じた壁面の飾りは職員が行っているが、入居者も出来ることを手伝われている。入居者同士の語らいの場としていることも訪問時に確認出来た。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの分散配置を行い、個々の状態・状況に合わせた居場所づくりに努めている。又、利用者同士の交流が図れるような居場所づくりにも努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用開始時に本人・家族と相談しながら馴染みの物を持ってきてもらう等の対応は行っているが、本人の身体等へ影響し転倒リスクなどへつながる場合は、状況・状態にあった環境へ変更しながら対応も行っている。その中で出来る限り本人が居心地よく過ごすことが出来るよう検討を行いながら取り組んでいる。	居室への持込みは基本的には自由で有ることや、入居者が使い馴れた物や思い出の品を持参してもらうように説明している。テレビやソファ、タンス等の他、誕生日のプレゼントや家族写真を置き、昼食後の休息や、自分で掃き掃除をされる等自宅の延長としての居室環境としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内では、安全な移乗動作につながるよう、環境整備や手すりのレンタル等活用しながら、できることを活かしながら安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう支援している。		